

平成22年基準消費者物価指数の中間年（平成25年）における見直し（案）

1 見直し内容

近年、携帯電話機のうち、一般にスマートフォンといわれる高機能型の機種（以下「スマートフォン」という。）の普及に伴い、スマートフォンの販売数、契約数が顕著な増加傾向にあるため、現行品目である「携帯電話機」及び「携帯電話通信料」について、スマートフォンによる価格も取り込み、従来型携帯電話機とスマートフォンとを合成した指数を作成します。

なお、その他、新たな品目の追加等の必要性の検討を行った結果、急速に普及又は衰退した品目はなかったことから、品目の追加・廃止は行わないこととします。

2 適用時期

中間年見直し（品目内容の見直し）は、東京都区部平成 25 年 1 月分（中旬速報値）（平成 25 年 1 月 25 日公表予定）、全国平成 25 年 1 月分（平成 25 年 3 月 1 日公表予定）から適用します。

3 指数の作成方法

（1）携帯電話機

スマートフォンの算入は、現行の計算式に用いている通信事業者 3 社について、従来型携帯電話機とスマートフォンの価格指数をそれぞれの前年の販売台数の割合を用いて加重平均し、合成することとします。

携帯電話機の価格指数の計算式は連鎖基準方式を採用しているため、平成 25 年 1 月における合成は、現行の計算式により平成 25 年 1 月の価格指数を算出し、平成 25 年 1 月の連環指数（100）を乗じるにより行います。

その他、詳細な計算式は別表 1 によります。

（2）携帯電話通信料

スマートフォンの算入は、現行の計算式に用いている通信事業者 3 社について、従来型携帯電話機の携帯電話通信料とスマートフォンの携帯電話通信料をそれぞれ前年の契約数の割合を用いて加重平均し、合成することとします。

スマートフォンの携帯電話通信料については、従来型携帯電話機と同様に、通話時間とパケット通信量による利用パターンごとの最安価格を選定します。なお、利用パターンに用いる通話時間については、低利用・中利用・高利用の 3 パターン、パケット通信量については高利用の 1 パターンとし、それぞれを組み合わせた合計 3 パターンとします。

スマートフォンの通信規格やOSなどの違いにより、価格水準に差が生じるものについては、契約数等を考慮した上で、複数の形態を採用することとします。

また、従来採用していた端末代金と通信料金の分離プランと非分離プランについては、分離プランのみに変更することとします。

平成 25 年 1 月における合成は、「携帯電話機」と同様、現行の計算式により平成 25 年 1 月の価格指数を算出し、平成 25 年 1 月の連環指数（100）を乗じることにより行います。

その他、詳細な計算式は別表 2 によります。

別表 1

携帯電話機	
価格選定	従来型携帯電話機・スマートフォン別，通信事業者別に，売れ筋の携帯端末を指定する。
指数算出方法	<p>I 従来型携帯電話機・スマートフォン(i)別，通信事業者(a)別平均価格の算出</p> <p>① 都道府県庁所在市ごとに，店舗(b)別の価格について調査店舗数(A)で単純平均し，通信事業者別の平均価格を算出する。</p> $P_{(Y,M),i,a} = \frac{\sum_b P_{(Y,M),i,a,b}}{A_{i,a}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p>P, p : 価格 Y : 当年 M : 当月 i : 従来型携帯電話機(F)・スマートフォン(S) a : 通信事業者 b : 店舗 A : 調査店舗数^{※注} $I^{(L)}$: 連環指数 I : 価格指数</p> </div> <p style="text-align: center;">注) 従来型携帯電話機は調査機種数(全国一律)</p> <p>II 品目別価格指数の算出</p> <p>② 当年当月の価格を当年1月の価格で除して算出した通信事業者別の価格比について，通信事業者の販売台数の割合(Q)を用いて加重平均し，当年1月を100とする従来型携帯電話機・スマートフォン別の連環指数を算出する。なお，販売台数の割合は毎年1月に更新する。</p> $I_{(Y,M),i}^{(L)} = \frac{\sum_a \frac{P_{(Y,M),i,a}}{P_{(Y,1月),i,a}} Q_{Y-1,i,a}}{\sum_a Q_{Y-1,i,a}} \times 100$ <p>③ 従来型携帯電話機・スマートフォンの販売台数の割合(Q)を用いて加重平均し，当年1月を100とする連環指数を算出する。なお，販売台数の割合は毎年1月に更新する。</p> $I_{Y,M}^{(L)} = \frac{I_{Y,M,F}^{(L)} \times Q_{Y-1,F} + I_{Y,M,S}^{(L)} \times Q_{Y-1,S}}{Q_{Y-1,F} + Q_{Y-1,S}}$ <p>④ 当年1月の価格指数に当年当月の連環指数を乗じて，品目別価格指数を算出する。</p> $I_{Y,M} = I_{Y,1月} \times \frac{I_{Y,M}^{(L)}}{100}$

別表 2

携帯電話通信料	
価格選定	契約数の多い通信事業者を3社選定する。スマートフォンは、通信規格、OS等により複数の形態を選定する。
指数算出方法	<p>I 従来型携帯電話機・スマートフォン(i)別、利用パターン(a)別平均価格の算出</p> <p>① 形態(c)別の最安価格について形態別契約数の割合(q)を用いて加重平均し、通信事業者(b)別の平均価格を算出する(スマートフォンのみ)。なお、契約数の割合は毎年1月に更新する。</p> $P_{(Y,M),i,a,b} = \frac{\sum_c P_{(Y,M),i,a,b,c} q_{Y-1,a,b,c}}{\sum_c q_{Y-1,a,b,c}}$ <p>② 通信事業者の契約数(q)を用いて加重平均し、利用パターン別の平均価格を算出する。なお、契約数は毎年1月に更新する。</p> $P_{(Y,M),i,a} = \frac{\sum_b P_{(Y,M),i,a,b} q_{Y-1,a,b}}{\sum_b q_{Y-1,a,b}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p><i>P, p</i> : 価格 <i>Y</i> : 当年 <i>M</i> : 当月 <i>i</i> : 従来型携帯電話機(F)・スマートフォン(S) <i>a</i> : 利用パターン <i>b</i> : 通信事業者 <i>c</i> : 形態 <i>I^(L)</i> : 連環指数 <i>I</i> : 価格指数</p> </div> <p>II 品目別価格指数の算出</p> <p>③ 当年当月の価格を当年1月の価格で除して算出した利用パターン別の価格比について、パターン数で単純平均し、当年1月を100とする従来型携帯電話機・スマートフォン別の連環指数を算出する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>(従来型携帯電話機(F))</p> $I_{Y,M,F}^{(L)} = \frac{\sum_{a=1}^9 \frac{P_{(Y,M),F,a}}{P_{(Y,1月),F,a}}}{9} \times 100$ </div> <div style="text-align: center;"> <p>(スマートフォン(S))</p> $I_{Y,M,S}^{(L)} = \frac{\sum_{a=1}^3 \frac{P_{(Y,M),S,a}}{P_{(Y,1月),S,a}}}{3} \times 100$ </div> </div> <p>④ 従来型携帯電話機・スマートフォンの契約数の割合(Q)を用いて加重平均し、当年1月を100とする連環指数を算出する。なお、契約数は毎年1月に更新する。</p> $I_{Y,M}^{(L)} = \frac{I_{Y,M,F}^{(L)} \times Q_{Y-1,F} + I_{Y,M,S}^{(L)} \times Q_{Y-1,S}}{Q_{Y-1,F} + Q_{Y-1,S}}$ <p>⑤ 当年1月の価格指数に当年当月の連環指数を乗じて、品目別価格指数を算出する。</p> $I_{Y,M} = I_{Y,1月} \times \frac{I_{Y,M}^{(L)}}{100}$